

2021年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|-----------|-------|-----------|------------------|--------|-----|--------|---------|
| 134041111 | 教育実習A | 山田陽平・近藤茂明 | | 教職 | 2 | 選択 | 4前期 |

科目の概要

教育実習は、教職課程履修の総仕上げであり、高校の教育現場に赴き、大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して生身の生徒に実際に教える体験を通して、学校教育の実際を知るとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。本学では、高校の免許のみ取得する者は、教育実習A（2単位）を履修するよう定めている。常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献できる家庭科教員となるためにも、この科目に真摯に向き合ってほしい。
なお、学内での事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に1単位設けられている。

| 学修内容 | 到達目標 |
|---|---|
| ① 教育実習を通して教職課程の総仕上げを行う。 ② 大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して、生身の生徒に実際に教える貴重な体験をする。 ③ 高校の教育現場に赴き、学校教育の実際を知る。 ④ 高校生に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得る。 | ① 教育実習を通して教職課程の総仕上げを行うことができる。 ② 大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して、生身の生徒に実際に教えることができる。 ③ 高校の教育現場に赴き、学校教育の実際を知ることができる。 ④ 高校生に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得ることができる。 |

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

| | | |
|---------|-------------|---|
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 教師から指示されなくても、自ら進んで授業の予習・復習をすることができる。 |
| | 働きかけ力 | |
| | 実行力 | 強い意志を持ち、将来の目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。 |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 課題を明らかにするために情報収集や分析ができる。 |
| | 計画力 | |
| | 創造力 | 固定概念に捉われずいろいろな方向から考えることができる。 |
| チームで働く力 | 発信力 | 自分で調べた内容を的確な文章で表現したり、他人にわかりやすく発表できる。 |
| | 傾聴力 | 相槌や共感を示しながら、相手の話を素直に聞くことができる。 |
| | 柔軟性 | |
| | 状況把握力 | |
| | 規律性 | 欠席、遅刻、私語、居眠りなどせず、授業が円滑に進むよう規律を守ることができる。 |
| | ストレスコントロール力 | |

テキスト及び参考文献

テキスト：「教育実習の手引」（愛知学泉大学）
参考文献：授業中に適宜紹介する。

他科目との関連、資格との関連

「教育実習A」は教職に関する科目であり、3年次までに学修した全ての科目を実践する場となる。実習後は「教職実践演習」で学びを振り返る。
高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得するために履修する必要がある。

| 学修上の助言 | 受講生とのルール |
|---|--|
| 生身の生徒に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得ることができるまたとない貴重な機会なので、有効に生かしてほしい。これまでに学んだ専門知識・技能がすべて試される。 | 欠席はもちろん遅刻・早退も厳禁である。就職活動などもってのほかである。毎日の実習日誌や学習指導案など、実習校での提出物の期限を厳守すること。 |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | | | | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | |
|--------|-----------------------|--------------------|-------|------|--|--|--|--|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | | | | |
| | | | | ② | | | | | |
| | | | | ③ | | | | | |
| | | | | ④ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | 0 | ① | | | | | |
| | | | | ② | | | | | |
| | | | | ③ | | | | | |
| | | | | ④ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 平常評価 | レポート | 0 | ① | | | | | | |
| | | | ② | | | | | | |
| | | | ③ | | | | | | |
| | | | ④ | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 平常評価 | 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 90 | ① | ✓ | | | | 各校長による成績評価を最大限尊重するが、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に評価する。 | |
| | | | ② | ✓ | | | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | | | | (主体性) ・教師から指示されなくても、自ら進んで授業の予習・復習をすることができるか。 (実行力) ・強い意志を持ち、将来の目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができるか。 (課題発見力) ・課題を明らかにするために情報収集や分析ができるか。 (創造力) ・固定概念に捉われずいろいろな方向から考えることができるか。 (発信力) ・自分で調べた内容を的確な文章で表現したり、他人にわかりやすく発表できるか。 (傾聴力) ・相槌や共感を示しながら、相手の話を素直に聞くことができるか。 (規律性) ・欠席、遅刻、私語、居眠りなどせず、授業が円滑に進むよう規律を守ることができるか。 | |
| | | | ② | ✓ | | | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 総合評価割合 | | | 100 | | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|---|---|
| 実習校の校長による成績評価が優であること。 それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。 | 実習校の校長による成績評価が良であること。 それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。 |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|------|--|-------------------------------|------------------------|--|-------|---|
| 1～15 | 実習校の定める実習計画に則って実施される。 一般的には、実習の始まる1～2週間ほど前に、実習校に召集され、事前指導を受ける。 2～3週間にわたる実習期間中は、校長・教頭の指導講話に始まり、観察→参加→実習という形で順次進行し、最後に研究授業で締めくくられる。 また、学習指導のみならず、特別活動・生徒指導・総合的な探究の時間の指導なども随時行われる。 | 実習 ICTツールは実習校のルールに従って活用する。 | 実習校において支障なく最低限のことができる。 | 毎日が予習・復習の連続である。 予習①教育実習期間に入る前に模擬授業などの準備を行う。 予習②当日の業務内容に必要なことは全て前日までに準備する。 復習①各日の課題は記録し、復習に努める。 復習②教育実習後に不足な点をリストアップし、補習する。 | 600 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2021年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|-----------|-------|-----------|------------------|--------|-----|--------|---------|
| 134041112 | 教育実習B | 山田陽平・近藤茂明 | | 教職 | 4 | 選択 | 4前期 |

科目の概要

教育実習は、教職課程履修の総仕上げであり、中学や高校の教育現場に赴き、大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して生身の生徒に実際に教える体験を通して、学校教育の実際を知るとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることを目的とする。常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献できる家庭科教員となるためにも、この科目に真摯に向き合ってもらいたい。
 本学では、中学と高校の両方の免許、あるいは中学の免許のみ取得する者は、教育実習B（4単位）を履修するよう定めている。
 なお、学内での事前・事後指導については、「教育実習指導」として、別に1単位設けられている。

| 学修内容 | 到達目標 |
|--|--|
| ① 教育実習を通して教職課程の総仕上げを行う。 ② 大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して、生身の生徒に実際に教える貴重な体験をする。 ③ 中学や高校の教育現場に赴き、学校教育の実際を知る。 ④ 中学生や高校生に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得る。 | ① 教育実習を通して教職課程の総仕上げを行うことができる。 ② 大学において学んだ知識・理論・技能等を活用して、生身の生徒に実際に教えることができる。 ③ 中学や高校の教育現場に赴き、学校教育の実際を知ることができる。 ④ 中学生や高校生に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得ることができる。 |

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

| | | |
|---------|-------------|---|
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 教師から指示されなくても、自ら進んで授業の予習・復習をすることができる。 |
| | 働きかけ力 | |
| | 実行力 | 強い意志を持ち、将来の目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。 |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 課題を明らかにするために情報収集や分析ができる。 |
| | 計画力 | |
| | 創造力 | 固定概念に捉われずいろいろな方向から考えることができる。 |
| チームで働く力 | 発信力 | 自分で調べた内容を的確な文章で表現したり、他人にわかりやすく発表できる。 |
| | 傾聴力 | 相槌や共感を示しながら、相手の話を素直に聞くことができる。 |
| | 柔軟性 | |
| | 状況把握力 | |
| | 規律性 | 欠席、遅刻、私語、居眠りなどせず、授業が円滑に進むよう規律を守ることができる。 |
| | ストレスコントロール力 | |

テキスト及び参考文献

テキスト：「教育実習の手引」（愛知学泉大学）
 参考文献：授業中に適宜紹介する。

他科目との関連、資格との関連

「教育実習B」は教職に関する科目であり、3年次までに学修した全ての科目を実践する場となる。実習後は「教職実践演習」で学びを振り返る。
 中学校教諭一種免許状（家庭）・高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得するために履修する必要がある。

| 学修上の助言 | 受講生とのルール |
|---|--|
| 生身の生徒に実際に教えることを通して、教員としての能力・適性についての自覚を得ることができるまたとない貴重な機会なので、有効に生かしてほしい。これまでに学んだ専門知識・技能がすべて試される。 | 欠席はもちろん遅刻・早退も厳禁である。就職活動などもってのほかである。毎日の実習日誌や学習指導案など、実習校での提出物の期限を厳守すること。 |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | | 評価の割合 | 到達目標 | | | | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | |
|-----------------------|--------------|--------------------|-------|------|---|--|--|---------------------------------|--|--|
| 学修成果 | 学期末試験 | 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験 | 0 | ① | | | | | | |
| | | | | ② | | | | | | |
| | | | | ③ | | | | | | |
| | | | | ④ | | | | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | | 0 | ① | | | | | |
| | | | | | ② | | | | | |
| | | | | | ③ | | | | | |
| | | | | | ④ | | | | | |
| | | レポート | | 0 | ① | | | | | |
| | | | | | ② | | | | | |
| ③ | | | | | | | | | | |
| ④ | | | | | | | | | | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | | | 90 | ① | ✓ | | | | | |
| | | | | ② | ✓ | | | | | |
| | ③ | | | ✓ | | | | | | |
| | ④ | | | ✓ | | | | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | | | | | | |
| | | | ② | ✓ | | | | | | |
| | | | ③ | ✓ | | | | | | |
| | | | ④ | ✓ | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 総合評価割合 | | | 100 | | | | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|--|
| <p>実習校の校長による成績評価が優であること。それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。</p> | <p>実習校の校長による成績評価が良であること。それを最大限尊重し、実習日誌や研究授業指導案やレポートなどを見て、大学において総合的に判断する。</p> |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|------|---|-----------------------------|------------------------|---|-------|---|
| 1～15 | 実習校の定める実習計画に則って実施される。 一般的には、実習の始まる1～2週間ほど前に、実習校に召集され、事前指導を受ける。 2～3週間にわたる実習期間中は、校長・教頭の指導講話に始まり、観察→参加→実習という形で順次進行し、最後に研究授業で締めくくられる。 また、学習指導のみならず、特別活動・生徒指導・道徳教育・総合的な学習の時間の指導なども随時行われる。 | 実習 ICTツールの使用は実習校のルールに従う。 | 実習校において支障なく最低限のことが出来る。 | 毎日が予習・復習の連続である。 予習①教育実習期間に入る前に模擬授業などの準備を行う。 予習②当日の業務内容に必要なことは全て前日までに準備する。 復習①各日の課題は記録し、復習に努める。 復習②教育実習後に不足点をリストアップし、補習する。 | 600 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力